

EPIDINO エピディオノ

このサイトは、てんかん発作に起因するベッドからの不規則な動きを検出するためのモニターです

Arduino で発作アラームデバイスを構築するというアイデアは、Epi-Care デバイスのセンサーが機能しなくなり、迅速な解決策が見つかったときに発生しました。

そしてそれがエピディオノの登場です。強直性痙攣発作の警報装置を携帯電話ネットワークに送信する警報装置。

最初のバージョンは、コンポーネント用のシールド ARDUINO UNO と GSM シールドで作成されました。

その後、新しいボードが 1 つのボード上に設計され、異なるソリューションの可能性が実現されました。

ここに最新のバージョンが表示されます。センサとして、ピエゾ素子のみが使用される。それにもかかわらず、加速センサの電圧供給のために後壁にソケットも設けられているので、加速度センサを接続することも可能である。

GSM シールドを取り付けて SMS を送信することができます。

日本では、GSM がないので、GSM シールドを使用できないが、ブザーをつけることができます。

現時点では、いくつかのピエゾセンサーが直列に使用されており、正常に動作します。

3 つのポテンショメータを使用することで、センサの感度、持続時間（「待機フェーズ」）、および警報スレッショホールドの良好な調整が可能です。

動きが検出されると、タイマーが始まり、赤い LED が短時間点灯します。その後、設定された待機時間（継続時間）が終了するまで緑色のランプが点灯します。

- 待機フェーズ中に動きが再び検出された場合、タイマーはゼロにリセットされます。
- 動きが検出されずにタイマーが待機フェーズの終わりに達すると、緑の LED が消灯します。

待機段階（期間）内の各移動では、いわば監視時間が長くなる。

逐次移動によってタイマを連続的に延長してアラームしきい値を超えた場合、アラームがトリガされます。

動きは赤い LED によって通知されます。

待機フェーズは緑の LED で示されます。

興味があれば、メールしてください。

mail(at)dk2os(dot)net